

ごあいさつ

株式会社中央コーポレーションは、創業者高橋吉助が個人営業していた中央製作所を昭和 40 年（1965 年）10 月 4 日に株式会社化して以来、今年で 60 年を迎えました。10 年前の 2015 年に発行した創立 50 周年記念誌において、江戸末期まで遡る当社の源流に触れ、5 世代 160 年にわたる歴史を紹介させていただいておりますので、60 周年記念誌においては、それ以降の 10 年間について、特に 2011 年に発生した東日本大震災の復興に当社が果たした役割と意義に着目してとりまとめました。

東日本大震災とその復興は、岩手県にとっても当社にとっても、歴史に残る大きな節目となる出来事でした。当社は発災翌日の 3 月 12 日から岩手県鉄構組合と連携し岩手県沿岸部の 600 カ所に及ぶ水門・陸閘の応急復旧、調査等に岩手県の別働隊となって協力しました。本格復興過程においては、これまで経験のない大規模な橋梁、水門、陸閘が数多く岩手県から発注されました。岩手県の入札が総合評価落札方式となり、県内に橋梁・水門の施工実績を有する企業が複数存在したこと、震災翌日から実働できる地元メーカーがあることの重要性を県当局が再認識したこと、岩手県鉄構工業協同組合が鉄構業界を代表し信頼感をもって話し合いできる存在となったこと等様々な環境が整い、大型橋梁・水門・陸閘を元請として県内企業が施工し、立派に完成させ、メンテナンスまで対応出来るようになり、岩手県の鉄構業界の成長と成熟を感じる歴史的な 10 年となりました。

河口部の津波対策水門には日本最大級のシェル構造サニットゲートが複数採用され、当社は丸島アクアシステムさんと特定 JV を構成し甲子川水門、大槌・小鉾川水門、鵜住居水門の 3 件の WTO 案件を受注、その他にも多くの大型水門・陸閘を復興 JV ないし単社の元請で完成し、東日本大震災復興工事で当社が据え付けた水門・陸閘・橋梁は、元請・下請含め 150 箇所を超えています。現在は、岩手県および沿岸自治体から水門・陸閘の年次点検設備業務委託を請負い、24 時間 365 日正常な稼働を確実にする維持管理を担っております。橋梁についても、大船渡川口橋は橋長 180 m の 3 径間連続非合成箱桁、宮古西大橋は橋長 430 m の 7 径間連続細幅箱桁、陸前高田今泉大橋は橋長 280 m の 6 径間連続非合成鉸桁など、多くの大型橋梁を特定 JV ないし単社で完成させ、複数の優良工事表彰を受賞しました。

震災後 8 年が経過した 2019 年令和元年には、埼玉県さいたま市に関東営業所を開設しました。最初は三浦正人所長 1 名の小さな営業所でしたが、日鉄エンジニアリングさんの合成床版橋（パネルブリッジ）の元請・下請工事、河川改修に伴う水門改修、JR 東日本向け重要鉄道構造物など当社の強みとする分野で、元請・下請ともに予想以上の営業成績をあげることができ、東京都の白鷺橋、神奈川県厚木土木事務所 83 号橋において優良工事表彰も受賞し、2024 年度関東営業所受注額は全社の約 40% を占めるまでになりました。

この 10 年は東日本大震災の復興をバネに、会社・社員それぞれが千載一遇のチャンスにしっかり取り組み、技術力を伸ばし、立派な実績と自信を付け、企業力を格段に飛躍させた 10 年だったと思います。復興需要の減少を睨み、インフラ整備需要の大きい関東に営業拠点を展開するタイミングも絶妙で、東日本全体に揺るぎない地盤を構築しつつあると考えます。

若年社員の採用も順調に進み、女性社員も増え、社員の平均年齢も若返り、10 年前とはまるで違う会社であるかのような感じさえ受けます。令和 7 年 9 月の株主総会において、長年当社を支えてきた複数の役員が退任し経営陣の若返りが進み、今後 10 年、20 年の舵取りを担う顔ぶれとなりました。次世代にとっても働きやすい環境整備をすすめ、社会に必要とされる公器として、長期的視野にたって人財を育て大切にする経営を続けて参りたいと考えております。

数多くのみなさま方のご協力を頂き、株式会社中央コーポレーションが創立 60 周年を迎え、さらなる未来へ発展し続けられるよう、社員一丸となって邁進することをお誓いし、会社を代表して心からの感謝と御礼を申し上げます。

令和 7 年（2025 年）11 月 15 日

株式会社中央コーポレーション

代表取締役社長

佐々木 史昭





ご 祝 辞

株式会社横河 N S エンジニアリング

代表取締役 湯川 雅之

株式会社中央コーポレーション様が創立 60 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。創立 50 周年の折に拝聴いたしました「鉄工業創業 75 年、建設業に携わって 150 年」（現在は + 10 年）の歴史の重みに感銘を受けたことを今も鮮明に記憶しております。経営理念である「顧客第一主義、鋼と建設の高度な技術で社会に貢献します」を体現され、今日のご繁栄を築いてこられたことに改めて深く敬意を表します。

私ども横河 N S エンジニアリングは、2009 年 7 月に住友金属工業（現・日本製鉄）の建設エンジニアリング部門を分社化して設立された、まだ若い会社ではございますが、株式会社中央コーポレーション様のご支援をいただきながら成長してまいりました。主力製品である合成床版（TRC 床版）の製作においては、優れた品質と多岐にわたる顧客ニーズへの対応力で、弊社の草創期を力強く支えていただきました。

また、東日本大震災を契機に開発した「ハイブリッド防潮堤」においては、全く新しい形式である大型合成構造物の製作をご担当いただき、約 1 年という短期間で製品化を実現することができました。本製品は、宮古港において延長 1,800m、高さ 8m の頑強な雄姿を示し、今なお大津波から宮古市街を守り続けております。このような大きな成果を上げることができたのも、若き日に同じ職場で一緒にさせていただいた佐々木社長との信頼関係の賜物であると心から感謝しております。

佐々木社長とのご縁は、私が平成元年に住友金属工業へ入社した当時に遡ります。3 年先輩であった佐々木社長は、すでに橋梁技術の第一線で活躍されており、数多くのご指導をいただきました。平成 6 年には、当時の株式会社中央製作所に戻られ、若くして社長にご就任。その後も、仕事はもとよりプライベートでも一緒にする機会に恵まれ、常に前向きで明るいお人柄、真摯な姿勢、そして難易度の高い大型工事や新規分野への果敢なチャレンジ精神から、多くを学ばせて頂きました。今後とも、経営の“大先輩”として大所高所からのご助言を賜れましたら幸いです。

これからの我が国のインフラ整備においては、老朽化が進んだ施設の維持修繕がますます重要になってまいります。御社と共同で取り組んでいる大規模更新向け新型橋梁「NY ラピッドブリッジ」の拡販などを通じて、両社の関係をより一層深め、次の 10 年、20 年、さらには株式会社中央コーポレーション様の創立 100 周年に向けて、Win-Win の関係をさらに『しんか（進化と深化）』させ、両社の企業価値向上を目指してまいりたいと考えております。

なお、遙か先の佐々木社長の背中を追いかけているゴルフについては、今一度精進し、少しでも近づけるよう努力してまいります。こちらにつきましては、一方的なご指導を何卒よろしくお願いいたします。

結びに、株式会社中央コーポレーション様のさらなるご発展と社員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、私の祝辞とさせていただきます。

このたびは、創立 60 周年、誠におめでとうございます。



ご 祝 辞

株式会社 HART 高木 録郎

（2012.8 ～ 2021.9 顧問在籍）

2011 年 3 月発生の東日本大震災を区切りに、前職を辞めて縁あった佐々木社長にお願いし 2012 年 8 月から 10 年間、中央コーポレーションで復興工事への何らかのお手伝いをと毎月名古屋からお邪魔しました。

この間に、私の貴重な経験をした一つ目は若い人との交流です。

復興工事のような大規模工事には技術力、人材、施工経験など地元の建設会社には足りないと思われがちですが地元の復興を自分たちの手でという思いがあるはずです。そんな地元の思いへの技術協力が復興に叶えると思いました。

若い社員に技術資格を持った技術者に育てようという気持ちで 1 級、2 級土木施工管理技士の受験勉強会を開かせてもらいました。必ずしも建設系の学校を終了した人ばかりでなく、受験勉強は理解しにくい知識も必要です。携帯電話やパソコンの便利な時代ですから考えたことを文章化し、手書きすることに慣れていない年代ですから試験官のように厳しく接し苦労かけました。受験を希望する人たちには、資格取得は自分の終生の財産になることをモットーに頑張ってもらい、受験翌年 2 月の結果発表には合格者、不合格者といずれも喜び、あるいは残念がりと、そして素人の指導方法への反省でした。

そして、二つ目は防食技術への出会いです。

初めて訪れた頃、会社では金属溶射という防食技術を始められており、興味を持たせていただきました。猪狩部長中心に安全かつ長期耐力のある無機系封孔剤を使うことに着目されており、国交省新技術として NETIS 登録へのお手伝いをさせてもらいました。新技術の登録は会社技術力として大きな評価になるわけで、前職時代でも取得に苦労をしたものです。この防食技術で逆に多くを学ばせてもらいました。

福島原発汚水タンク水漏れ事故対策の手伝いを大手ゼネコン経由で頼まれていた頃、2017 年秋にドイツ製タンク洗浄用機械に出会いました。砂と水を混合して噴射洗浄するこの中古機械を塗り替え工事の湿粒ブラスト工法として応用できないかを試行錯誤して考え、開発し、名古屋で NETIS 登録にこぎつけました。ブラスト技術は乾式ブラスト工法が主流であり、粉じん飛散が激しい作業環境で苦労されているのを見て、安全、かつ作業性の良い工法をと思いついたわけです。開発工法も理解を得ることに苦労しましたが、猪狩部長と共に岩手県工業技術センターの協力で気化水溶性防錆剤を開発し、先に開発した湿粒ブラスト工法の品質向上にも役立つ新技術として、続いて NETIS 登録し、会社技術力アップに貢献できました。これらは従来の乾式ブラスト工法の弱点を補う補修技術工法として期待され、会社の技術力が東北から全国的に認められていくことに感無量でありました。

末筆となりましたが、中央コーポレーションが社員と会社が高い技術を持った企業として益々飛躍されることを祈念し創立 60 周年のお祝いの寄稿とさせていただきます。



岩手のエクセレントカンパニー として益々の発展を！

株式会社中央コーポレーション顧問・元衆議院議員

畑 浩 治

株式会社中央コーポレーション創立60周年おめでとうございます。中央コーポレーションのこれまでのインフラ整備や岩手県の地域活性化、経済発展に果たしてきた役割とそれを支えてきた先達と現在の役員社員の皆様の活動に敬意と感謝を申し上げる次第です。

私自身も、平成27年から貴社で顧問をやらせていただいておりますので、私にとっても本年は顧問就任10周年という節目の年になりました。貴社で顧問をやらせていただくきっかけは、私と佐々木史昭社長が高校の同級生として従来より旧知の関係にあったことにあります。国土交通省、衆議院議員と公の立場で建設行政に携わってきた私ですが、民間企業の立場から建設業を見つめてみたいという思いがありました。

行政官の立場、政治家の立場として見てきた建設業界を、民間企業の中から見てみると、改めて新鮮で勉強になることの多い日々です。それは、建設会社は、日頃から自社の強みを把握して事業獲得のための戦略を緻密に議論立案し、技術力を磨き、いいものを作ろうとしているということです。そして、自分の事業を通じていかに地域社会に貢献しようかと日々考えていることです。東日本大震災の復旧復興において中央コーポレーションの果たした役割の大きいことは私の言うまでもないことです。貴社の中にいて貴社の活動を、現実に体験してみると、役所の立場で考えていたことと実務との違いを感じ、いかに現実を知らずにいたのかという気持ちを持つこともあります。

私は、鉄橋幹部会に参加させていただいて、またその後に若手の皆様と語らせていただいて、貴社のすばらしさを実感しております。そのすばらしさとは、真面目でしっかりとした仕事ぶりです。案件受注に向けて綿密な戦略を立て営業活動を行い、技術力を磨き、受注した案件については誠心誠意いいものを工期内につくろうと努力する、という意識がいつも感じられます。単なる形式的な報告にならずにいつもいい議論が行われていると感じています。貴社にいて感じることは、皆が会社のことを日頃から真剣に考えているということです。派手さや自己主張は強くないのですが、いつもいい加減さを排してまじめに仕事に取り組んでいる姿勢、やらせてみるとすごい能力のあることなど、岩手県人のいいところが現れた典型的な岩手のエクセレントカンパニーと言える会社だと思います。

貴社が手掛けたある直轄の歩道橋工事についての思い出があります。発注者たる国土交通省の事務所からの度重なる発注時期の変更や工事變更に伴う工事費の変更がある中で、かつ、周辺の住民への環境対策や店舗対策という難しい対応が求められる中、そのような状況に的確かつ柔軟に対応し、高欄の目隠しの設置、看板設置や工事における安全対策を行い、無事に完了させたことがありました。必ずしも多大な利益に結び付く工事であるわけでもないのに、現場代理人に加え、本社の工事部長も現場に常駐させるなど万全の体制で施工に当たったという努力も見えて参りました。この工事は事務所長表彰を受けたのですが、これが中央コーポレーションイズムだと思います。

東日本大震災の復興事業も落ち着き、全体の公共事業費をめぐる状況も予断を許さないものがあります。また、建設業における社員の高齢化や若者の採用の難しさなどの問題も現れています。しかし、建設産業は、生活や産業といった全ての国民活動の一番の基本である国土と地域を支えていく基幹産業であります。特に災害の多い我が国においてはエッセンシャルワーカーとしての産業の最たるものであります。その中でも、かなりすばらしい仕事ぶりで発展して来た貴社のような地域を支える優良企業の占める位置がますます重要になってくると私は確信しますし、またそうでなければならないと考えます。

私は、佐々木史昭社長とは、月1回山登りもしている山仲間でもあります。佐々木史昭社長と頂上を目指しながら建設産業のことや中央コーポレーションの未来について語り合う時間は大変貴重で刺激的な時間です。私は、貴社で顧問をやらせていただいていることに誇りを持っております。今後とも、貴社のすばらしさのPRや貴社のような地方のすばらしい企業が活躍できる環境の整備に向けた働きかけ、情報収集など、私のできる立場で頑張ってまいりたいと思います。

貴社の活動エリアは岩手、東北の枠にとどまらず関東など全国展開とも言える状況になっています。社員の皆様におかれては、中央コーポレーションは全国的に見てもすばらしい会社であることに誇りを持って活動していただきたいと思います。

結びとなりますが、改めて貴社のますますのご発展と社員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。



創立60周年によせて

元専務取締役 現相談役 菅原 博

平成27年（2015年）に創立50周年の式典が開催され、その前年度には多くの復興工事を受注し、創立50周年の折は当社にとって東日本大震災の復興工事が本格的に始まる時期でした。そして令和6年1月31日（2024年）太平洋セメント大船渡工場に隣接する「普金2号、3号陸開工事」をもって当社受注の全ての復興工事を完了させることが出来ました。このことは復興工事を立派に完成させようという弊社職員の努力と熱意の賜だと考えます。また、同時に忘れてならないことは工事関係者並びに地元の漁業関係者そして一般住民の方々の御協力であり、感謝の念でいっぱいです。

さて、私達はこの10年間復興工事等を通じて何を学んできたのでしょうか。復興工事に際しては多くの大型構造物を手掛ける機会が有り、我々にとっても多くの知識を業務に取り入れ、技術・技能を研鑽する良い機会になったと思います。多くの職員（各部署職員）が難しい現場を経験することで著しい成長を遂げました。仕事の内容が個人の成長を促したという事実からもそれを窺い見ることができます。私達が手掛けるほぼ全ての構造物は50年以上の長きに亘り社会資本として残るものです。社員全員がそのことを意識し、業務に取り組むことで、さらに良い方向に変化していくことを学んだのではないのでしょうか。

そして、関東営業所の開設（令和1年9月開設）についても触れなければなりません。関東に営業所を開設する目的は、復興工事の終了を見越しての事でした。復興工事が終わることで、岩手県内公共工事は東日本大震災前の厳しい状況に戻る事が想定されました。以前から首都圏に本社を置く企業様との取引が多く有るにも関わらず、どちらかというと「待ちの営業」となっており、顧客の新規開拓が進まない状況でした。従って新規顧客の開拓を進めるとともに、これまでの取引企業様との取引量を増やしていきたいとの思いから関東に営業所を開設しました。右も左もわからない中、開設のために尽力し、今なお営業所運営に注力してくれた職員達の苦勞を思うと感謝しかありません。初めての元請物件は埼玉県発注、令和2年2月25日契約の「芝宮橋」でした。思いのほか早く公共物件が受注でき、嬉しかったことが思い出されます。その後日鉄エンジニアリング様の御協力も有り、パネルブリッジを梹子に、地場GCにも食い込みながら受注の拡大が図られています。中堅GCの物件情報も密に取りながら受注に結びつけており、今後も楽しみが多いと感じます。またJR東日本向けの製作物件の受注拡大が実現していることについても関東営業所を開設した効果が大きいと考えます。この6年間、様々なことが有りましたが優秀工事表彰を東京都並びに神奈川県から授賞するなど、関東営業所員・関東工事課員の努力の甲斐もあり、受注額は当初予測よりも大きくなっており、今後益々の発展が期待されます。

最後に、これからの10年間の過ごし方により職員がさらに成長し、会社が発展することを切に願いまして、私の寄稿文のまとめと致します。



創立60周年によせて

元監査役 藤原 正克

私が岩手銀行を退職後、当社に入社したのは2003年（平成15年）10月1日でした。

当時、当社は5月に中央製作所と中央建設工業が合併し、社名を現在の中央コーポレーションとして発足したばかりで、売上高は20億円程度だったと記憶しております。

入社後22年たった今、60周年記念誌にこの文を載せるにあたって10年前の50周年記念事業、記念誌の編集に携わったことを思い出しています。

50周年の時、私は取締役総務部長で記念事業の打合せや記念誌への寄稿依頼など忙しくも楽しく仕事をしていたと思っております。

さて、その後の10年ですが、当社にとってまさに復興工事の時代でありました。

2011年の東日本大震災から3年たった2014年3月から(株)丸島アクアシステム様との復興JVで「釜石港須賀地区ほか海岸災害復旧（23災144号ほか）陸間設備ほか工事」を皮切りに17件ものJV工事を受注し完成させております。

私はJV工事が始まったときから、JV工事の経理を担当しておりましたが、2017年取締役総務部長を退任し、監査役として勤務させていただいている間も引き続きJV工事の経理を担当させて頂きました。

JV工事は「復旧・復興建設工事共同企業体（復興JV）」として当社が55% (株)丸島アクアシステム様が45%の比率で6件の工事を受注し完成させました。契約金額はJV全体で30億1600万円（当社分16億5900万円）となりました。また、同じく大同機工(株)様と復興JVでも同じ比率で6件、JV契約金額28億3000万円（当社分15億5600万円）を完成させております。

そのほか「特定・建設工事共同企業体（特定JV）」として、当社60%、(株)横河ブリッジ様40%の比率で施工した川口橋上部工工事では、契約金額8億7800万円（当社分5億2700万円）、当社55%、北日本機械(株)様45%の比率で施工した閉伊川横断橋上部工工事では、契約金額20億1900万円（当社分10億2700万円）をそれぞれ完成させました。

また、(株)丸島アクアシステム様が70%、当社が30%の特定JVのWTO案件では3件でJV契約金額が75億4000万円（当社分22億6200万円）とものすごい金額の工事を完成させております。

このように、JV工事だけで当社の工事金額は70億3200万円となっており、本当に復興工事の時代であったと痛感しております。JV工事は工期が概ね2～3年でしたが、(株)丸島アクアシステム様との復興JV「二級河川関口川筋関口川水門設備工事」は6年9ヶ月の長い工事となり現場代理人の高館和弥さん（現工事部主査）も大変だったと思います。

JV以外の私が関わった案件としては、2017年11月に西塚保さん（現工事部参与）が秋の叙勲で「瑞宝単光章」を受賞し、2018年2月には盛大に叙勲祝賀会を催しました。

そのほか、当社社長が理事長を務める「岩手県鉄構工業協同組合」から岩手県への推薦で2019年6月に「優秀建設施工者岩手県知事表彰」を菊池淳哉さん（現製造部次長）が受賞、その後2020年9月には「優秀施工者国土交通大臣顕彰」受賞しております。

また、同じく「優秀建設施工者岩手県知事表彰」を2024年6月に石森裕浩さん（現工事部次長）が受賞され、本年には大臣顕彰に推薦されております。

その他の案件としては、2014年に当社敷地南側の田圃600坪を新駐車場用地として賃借以来、2016年にはさらに1200坪を資材置場として賃借しております。さらに昨年2024年には駐車場用地の西側の田圃600坪を新駐車場用地として購入し、その南側900坪を新資材置場として購入しております。現在、さらに南側400坪ほどを購入することで進めているところです。

私が入社した頃に比べ、売上高、利益、敷地なども大きく増加し、これまでの会社の発展がうかがわれ同慶の至りであります。

これもひとえに佐々木社長の先見の明とリーダーシップによる社員教育の賜物と思っております。

第二の人生として22年間もお世話になったものとしては、感謝してもしきれない思いではありますが、(株)中央コーポレーションが100年企業として今後ますます発展されることをお祈りし、60周年記念誌への寄稿文と致します。